

南部版「男山、女山」 タオ・バーチアンとナーン・マローン

チャムパーサク県チャムパーサク郡パクセー地域のお話

訳：橋本彩 出典：Mixay, SOMSANOUK., 2004. "Treasures of Lao Literature volume 2". Vientiane: LJA Publications. pp.33-35.

ナーン・マローンはシーコッタポーン王国に住む未婚の美しい娘でした。彼女の父、パニャー・ポセーは王の側近で位の高い人でした。彼の夢は、娘を巨万の富をもつ丘の上のボラヴェン王国王子タオ・バーチアンと結婚させることでした。タオ・バーチアンは肌の黒い男でした。

しかしながらナーン・マローンの心はすでにチャムパーナコーン王の息子、タオ・パーサククに向いていました。タオ・パーサククもナーン・マローンのことがとても好きでした。「私はバーチアンを愛していないわ。彼の顔は悪魔のように黒いのですもの」とナーン・マローンは言うと、涙を流しました。「バーチアンはハンサムではないかもしれないが、大富豪なのだ。彼は貴重な宝も持っているし、金や銀や宝石がでる山を持っているのだ。おまえは彼と結婚するんだ」とパニャー・ポセーは娘に言いました。

ナーン・マローンはタオ・パーサククを来る日も来る日も慕い続けたので、ついにパニャー・ポセーは憤激して、2人が互いに見えなくなるようにするため、2つの王国の間に山を築きました。その山は今ではプー・カンマンと呼ばれています。

毎日、ナーン・マローンはタオ・パーサククに恋い焦がれ、彼からの何かしらのサインを期待していました。バーチアンとナーン・マローンの結婚式の日がついにやって来たその朝、ナーン・マローンはタオ・パーサククから彼女が来るのを待っているという内容の手紙を受け取り、感情の赴くままに駆け落ちすることを決めました。娘が抜けだしたことを知った父親は激怒して神々を目撃者にして、「2人が川の流れに飲み込まれ死ぬように」と叫び、呪いをかけました。

しばらくすると、貴重な金銀宝石の入った壺や十分すぎるほどの食べ物・お酒を何百という象に運ばせてバーチアンが山から降りてきました。何千という兵士たちも同伴してきました。いくつかの山を超えて、バーチアンはシーコッタポーンに到着しました。パニャー・ポセーは非常に恥ずかしく思い、将来の義理の息子であるボラヴェン王に嘘をつかざるを得ませんでした。パニャー・ポセーは召使に作らせた棺を見せながら、「なんたる悲劇でしょう！ 私の愛する娘、ナーン・マローンはもういないのです。昨晚、突然死んでしまいました」と嘘をつきました。

バーチアンは驚きとても悲しみました。彼が王国へ戻る途中、バーチアンは象たちを山で殺しました。その山は現在プー・サーン・ターイ（死んだ象たちの山）と呼ばれています。別の山で、彼は結婚式のごちそうとして持参した茹で鶏がたくさん入った全ての壺をひっくり返しました。その山は現在、プー・トム・カイ（茹で鶏の山）として知られています。バーチアンがお酒の入った全ての壺を叩き割った山は、現在プー・サー・ラオ（酒がこぼれた山）と呼ばれています。バーチアンは森のなかで常軌を逸した行いをしたのち、命を絶ちました。

その一方、愛するナーン・マローンと再会したタオ・パーサククは、彼女を父の王国であるチャムパーナコーン王国へ連れて行く決心をしていました。長旅の後、彼らは王国の門に面した島に到着しました。タオ・パーサククはナーン・マローンに「愛する人よ、ここで待っていておくれ。私は先に行って、父である王にあなたの到着を伝えてくるよ」と言い残し、2人の恋人たちは別れ、タオ・パーサククは彼の父親の宮殿へ向かいました。すると突然、ナーン・マローンはすごい痛みを感じました。一人で彼女は息子を産んだので

す。その島はドーン・パー・カム（産後産婦の森の島）として知られています。彼女は血のついたスカート
を川に投げ捨て、そのスカートは下流に流されて次の
島にひっかかりました。その島は現在、ドーン・デー
ン（赤い島）と呼ばれています。

ナーン・マローンは待つことができなかったので、
息子を腕に抱き、舟で川を渡ろうとしました。しかし、
彼女の舟は渦に巻き込まれ、沈んでしまいました。彼
女の息子は溺れてしまいましたが、彼女はなんとか岸
にたどり着き、亡くなった息子のために棺をドーン・
ローン（棺の島）で作り、火葬するための石炭をド
ーン・ターン（石炭の島）で集めました。息子の身体を火
葬するため、彼女は現在のムラパモック地区のピア・
ファイ（火の神）と呼ばれている所へ火を取りに行き
ました。ナーン・マローンは島から島へと恋人を探し
て歩きました。ドーン・モー・パーデーク（発酵した魚
の島）とドーン・コーン・カオ（ご飯入れの島）で、ナ
ーン・マローンは持ち物を捨てました。

彼女がシーバンドーン（四千の島々）でもっとも大
きいコーン島へ着いた時、タオ・パーサックもちょう
どこの地域にいたことを知っていたので、彼女は誰か
埋められていると聞くと、その場所へ行って地面を指
でひっかいて掘り、それがタオ・パーサックではな
いかどうかを確かめました。その島は現在、ドーン・ナ
ーン・クート（ひっかく女性の島）という名前がついて
います。それでも彼女はタオ・パーサックを見つけるこ
とは出来ませんでした。

絶望のうちにナーン・マローンは島から島へとさま
よい続けました。そしてついに、彼女の舟は爆音のす
るコーン・パペーンの滝に落ちて、ナーン・マローンは
死んでしまいました。タオ・パーサックの舟もまたメ
コン川のシーバンドーン地域で沈んだので、彼女は死
んで再び彼に会うこととなったのです。こうしてパ
ニャー・ボセーの呪いはかわいそうな二人にくだされ
たのでした。